

# 秋田BPO横手キャンパス

Akita BPO Yokote Campus

No. 21-020-2019作成  
新築  
事務所

発注者	株式会社プレステージ・インターナショナル	カテゴリー	
設計・監理	株式会社フジター級建築士事務所 Fujita Corporation	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術
施工	株式会社フジタ東北支店	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
		E. リニューアル	F. 長寿命化
		G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性
		K. その他	

## 地域と繋がり、地域から繋がるBPO拠点



建物外観

### ■コンセプト

地方都市に建つBPO事業の拠点となるオフィス。人同士の対話を重視する理念により、人にとって安全で明るく温かい執務環境を提供することが、エンドユーザーやクライアントの課題解決と信頼に繋がり、さらには地域の活性化や社会全体への貢献にも繋がると考えた。業務スペースとリラックスできる共用空間、カフェ、保育園やジムなどの福利厚生施設をクローバー型のウイングに備え、女性を中心とした地域の人が「ここで働きたい」と思える施設とした。建設地である秋田県横手市は積雪の多い寒冷な地域であるため、雪への対策を重点的に計画し、年間を通じた快適な環境作りに取り組んだ。



建物俯瞰



正面エントランス



ジム



リラックスゾーン

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	BPI	0.67
竣工年	BEI	0.86
敷地面積		
36,506㎡		
延床面積		
5,238㎡		
構造		
S造		
階数		
地上1階		

### ■自然エネルギーの利用と環境負荷の低減

建物をクローバーをモチーフとした有機的な形状としたことで、あらゆる方向より自然採光の窓を設けることができた。光がより奥に届くよう内壁にもガラス面を設けつつ、建物の中央部分にはトップライトを設けて自然採光を積極的に利用する明るい計画とした。窓は大開口ではなくスリット状の窓とすることで熱損失を抑え、明るい環境と空調負荷の低減を両立させた。ベースの空調設備は効率の高いGHP方式とし、また事務室の窓には局所的にペリメータ空調を設けることで寒冷地における施設としての省エネルギー化を図った。

### ■働きやすい快適な執務環境

施設内には保育園を設けて子供のいる人が働きやすく、また休憩やコミュニケーションのできるカフェ、リラクセスペース、ストリートなどの共用スペースを展開して業務のON、OFFの切替を行いやすい執務環境とした。

事務室の空調には全面床染み出し空調を採用することにより、天井吹き出し方式の80%程度のファン動力となり省エネ性の向上を図った。また温度分布が均一でドラフトフリーな環境を作ることができ、在室者に優しい空間を創造した。

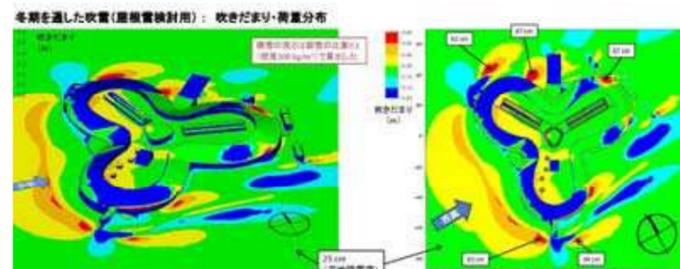
### ■雪への対策

豪雪地域では落雪による人身への危険、建物や設備機器の破損や能力低下によるリスクが伴う。また、積雪時にも施設全体が適切に運用され、設備機器のメンテナンスが出来る必要があるため、豪雪地帯特有の対策が必要となる。

屋根形状の検討にあたっては、落雪型屋根を用いた場合の積雪シミュレーションや地元業者への積雪のヒアリングを行った。結果、屋根形状をフラットな無落雪型屋根とし、落雪によるリスクを軽減し、定期的に雪下ろしを行う計画とした。

設備機器はGLより1.0m基礎を立上げ、通常の積雪時でも適切な管理が行き届き、能力を発揮できるよう設計した。

人の動線にはロードヒータを設置し、出入口は冬季の風上側に風除壁を設け、安全に配慮した。また、除雪した雪による危険が無いよう、敷地内の安全な場所に雪置きスペースを設けた。さらに冬季の雪の吹溜りを考慮して季節による風向を考慮し、メインエントランスの出入口を2方向に分けて設置するなどの地域環境への配慮を行った。



積雪数値シミュレーション

設計担当者  
建築：神田信孝、泉市啓一／構造：井田広徳、福波珠恵／設備：中島亨、岡崎陽平  
デザイン監修：光井純 アンド アソシエーツ 建築設計事務所

### 主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2. 2. 耐用性・信頼性（積雪対策、災害時バックアップ電源の確保）
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮（建物配置、形態、周辺景観との調和）
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮（寒冷地での快適な屋内環境の形成）
- LR1. 2. 自然エネルギー利用（自然採光の積極的な導入）
- LR1. 3. 設備システムの高効率化（GHP空調システム、LED照明、床染み出し空調）
- LR3. 2. 地域環境への配慮（外部の積雪管理計画）



センタートップライト



スリット窓



トップライトのあるストリート



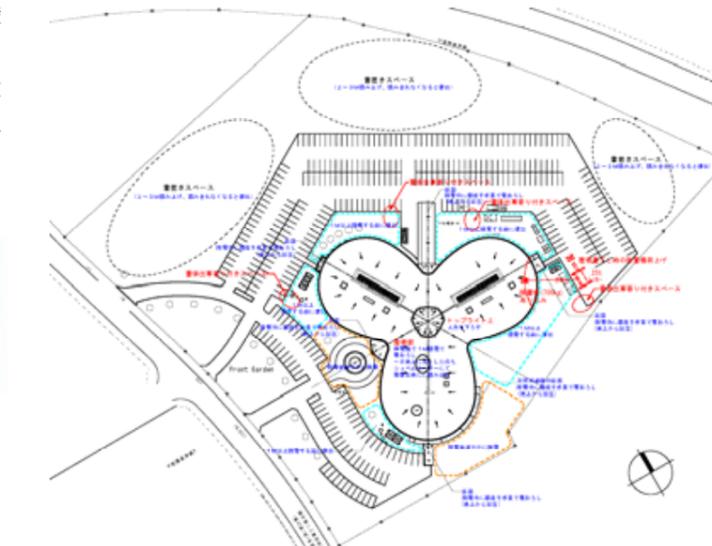
カフェ



風向を考慮した出入口

システム図		全館風収染み出し方式	
換気方式		自然換気方式	
循環空気量		約14%	
空調方式と特徴	空調域高さ	床面から換気面の高さまでが空調域となる床からしみ出した空調空気が室内に展開し、居住域で発生した熱や汚染物質を拡散せずに上部空間へ排除する置換換気方式の一種	
	空調区画内の熱負荷の偏在や間仕切り変更への対応	自前の偏在（発熱体）上部には上昇気流が生じるため、床面からの給気は自律的に発熱体へと引き寄せられる。	
快適性	垂直温度分布	冷房時	室内全域で均一
	暖房時	殆ど上下温度差がつかない	
	気流環境	超微風速で均一	
省エネ	室内汚染環境	周囲へ拡散せず上部空間へ押し上げられ排出される	
	ファン動力	二天井吹き方式の80%程度	
	熱源	中間期の外気冷房効果が大きい室温に近い温度で給気するため、自然エネルギーの利用が可能となり省エネ性が高い	

空調方式



積雪管理計画図